

毎月末に、総務省統計局から全国の就業者数や完全失業率が発表されていますが、この算出のもととなるのが「労働力調査」です。

昭和22年から毎月実施している、15歳以上の方の就業、不就業の状況を明らかにするための調査で、統計局が指定した地域内で無作為抽出された世帯の方に回答いただいております、そういえば調査票を書いたことがある、という方もいらっしゃるのでは。

就業、不就業の状況、と言ってもぴんときないかもしれませんが、働いている方は正規雇用か非正規か、非正規の場合その理由、また、働いていない方は求職活動の有無や働き始められる時期、など、意外と具体的な内容を調べています。

その全国集計の一例として、「就業は希望しているものの求職活動をしていない理由」をグラフにしましたが、男性は健康上の理由、自分の知識・能力に合う仕事がありそうにない、女性は出産・育児のため、勤務時間などが希望に合いそうにない、が多いことがわかりますね。

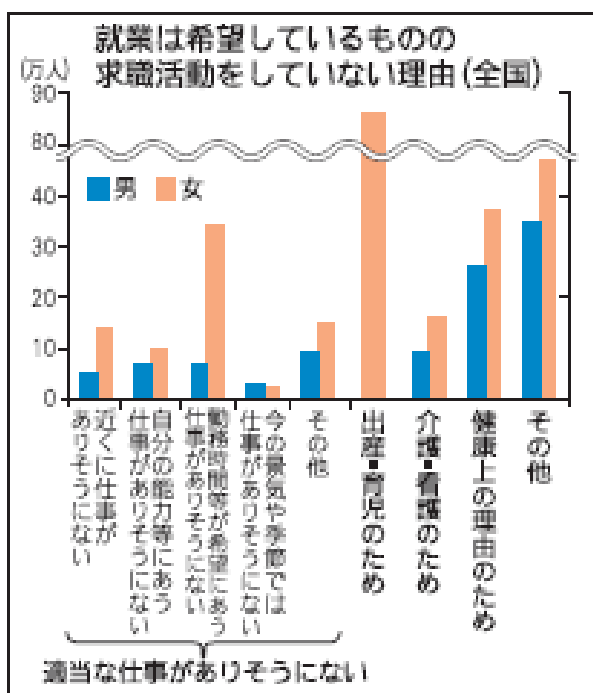
皆さんの暮らし方、働き方は年々変化しています。女性の労働力人口の割合は、山口県でもほとんど全世代で増加していますが、条件が自分のスタイルに合えば働きたい、という人がもっと大勢いらっしゃるようです。

こうした状況をより詳しく把握するため、来年1月から調査票の内容が少し変更されることになりました。

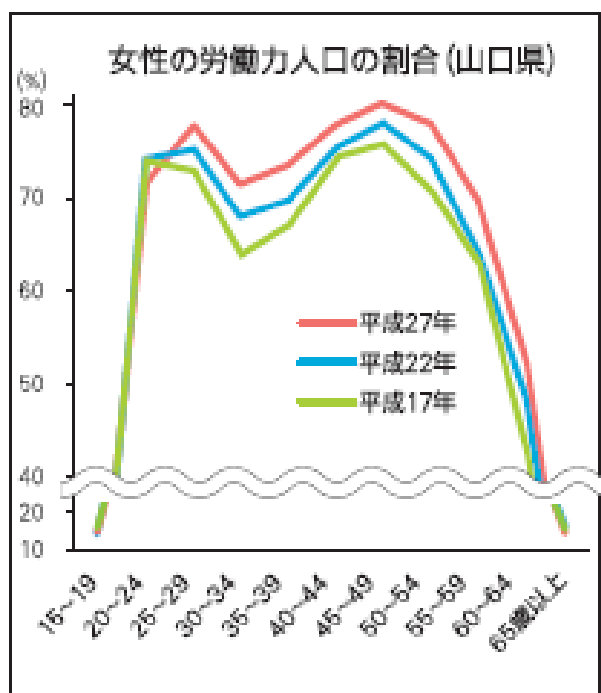
今の仕事の就業時間を増やしたり新しく仕事を追加したりできるか、また、求職活動はこれまでの直近1週間に加え1ヶ月以内にもしたかどうかなど、時代にあわせて調査項目が変わります。

このようにして、より働きやすい環境づくりのための国や自治体の施策づくりが進められていきます。

調査員がお伺いしたときはご回答をお願いします。



(出典:総務省「平成28年労働力調査」)



(出典:総務省「国勢調査」)